



海について学び、地域の魅力を知る
能登小木港 イカす会
 たくさんの笑顔が県漁協小木支所に集結。
 「イカす会」が5月29日に開かれ、
 多くの人が地域の魅力を再発見しました。



(上2枚) 小学6年生と中学3年生が参加した白山丸の「イカ釣り漁業体験」。(下) イカのつかみ取り



イカを知る

県の漁業調査船「白山丸」の乗船体験や、イカの解剖、イカ釣り船の見学など、小学生が地元の産業について学びました。



イカで賑わい
 能登高校書道部による書道パフォーマンスや小木小の鼓笛演奏で、イカ釣り船の出港を控える港町が賑わいました。



イベントの魅力を凝縮した、地域愛あふれる能登高校書道パフォーマンス作品



イカで楽しむ

凍結したイカの内臓を抜く「船凍イカ早抜き世界選手権」やイカの空箱を崩さずに早さを競う「走れっ！船凍イカ世界選手権」など当地競技が開催されました。



恒例 イベント「能登小木港イカす会」が5月29日に県漁協小木支所一帯で開かれました。日本有数のイカ水揚げ量を誇る小木港を広く発信しようと、さまざまな催しが繰り広げられました。会場には主催者発表で9,600人が訪れ、賑わいを見せました。

開会式では「のともろるスマイルプロジェクト」の地域活動応援金の贈呈がありました。プロジェクトでは能登町の食材としてイカが用いられ餃子と団子、炊き込みご飯の素が開発・販売されました。売り上げ1点につき3円が助成金として交付され、193,584円がコップいしかわの長谷川隆史理事長と山成商事の土居岸敏彦取締役から手渡されました。イベントは小木小学校児童の鼓笛演奏に始まり、県の漁業調査船「白山丸」でのイカ釣り漁業体験航海や船凍イカの早抜き選手権、イカのつかみ取りなど、この地ならではのユニークな体験がめぐる押しです。会場には炭火がおこされ、新鮮な海産物を楽しむことができ、来場者は海の幸に舌鼓をうちながらイベントを楽しみました。

特に盛り上がりを見せたのは、「AKB48 Team 8 能登応援隊」の皆さんによるステージです。AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」でイカす会を復活できた経緯があります。駆けつけたファンとともに、小木地区有志もステージの実現を喜びました。